

# 初 年 次 教 育 学 会

## ニューズレター 第 16 号

Japanese Association of First Year Experience  
at Universities and Colleges

初年次教育学会 事務局分室

〒162-0801

東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631

E-mail: [jafye-office@bunken.co.jp](mailto:jafye-office@bunken.co.jp)

事務局

関西大学 山田 剛史研究室内

### 今号の内容

1. ご挨拶
2. 事務局からのお知らせ
3. 学会誌編集委員会からのお知らせ
4. 大会運営委員会からのお知らせ

5. 初年次教育実践交流会の報告
6. 第 17 回大会課題研究の登壇者募集
7. 「2024 年度教育実践賞」応募要領
8. 編集担当より

### 1. ご挨拶

会長 藤田 哲也 (法政大学)

2023 年 5 月から新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) が感染症法上の「新型インフルエンザ等感染症」に該当しない、「5 類感染症」に位置づけられるに伴い、2022 年度の第 15 回大会 (於: 多摩大学) に引き続き、第 16 回大会 (於: 山梨学院大学) も対面で開催することができました。情報交換会も含めて、ほぼコロナ以前と同様のプログラムを実施いたしました。「コロナ以前と同様」と申しましたが、託児所の設置や、閉会式後のリフレクション・セッションの実施、3 日目には大会に関連した実践交流会の企画など、これまでにない新しい試みもしていただき、大会校のオリジナリティが前面に出た大会でした。この場を借りて、山梨学院大学側のスタッフである大会実行委員会の皆様、理事会側で運営に携わった大会運営委員会各位、そして会場に足を運んでくださった会員および非会員の皆様に厚くお礼申し上げます。年に一度とはいえ、皆様と対面で交流できる機会を設けることができるのは、やはり大変に喜ばしいことだと実感いたしました。

さて 2023 年度は、本学会が 2008 年に設立してから 16 年目の年でした (すなわち、来たる 2024 年度は 17 年目にあたります)。学会設立の年に誕生した子が、今はもう高校生になっているという月日が経過したことになります。そうこうしているうちに、その子も大学に進学し、初年次生になるわけです。日々の活動に追われている間はそれほどの年月が経っていることを実感することはありませんが、ふと立ち止まって振り返れば、改めて本学会が歩んできた

道のりの長さに感慨を懐く次第です。

実は 2022 年度の時点で既に 15 周年という節目を迎えており、初年次教育学会の周年事業としては、5 周年・10 周年のときのような記念出版ではなく、これまでの本学会の歩みを振り返り、学会運営についての記録に残すとともに、これから歩みを進める方向性について考える端緒となるような「15 周年記念誌」を刊行することとなっております。本来ならば一年前、15 周年の間に発行したかったのですが、思いのほか編集作業に時間がかかり、一年遅れでの刊行となりました。このニューズレターと前後して、皆様のお手元に届くかと存じます。記念誌発行の経緯や趣旨などは、そちらの巻頭に記したためしておりますので、お目通しただければ幸いです。メイン企画の座談会を読んでいただければ、この学会がどのようにして誕生し、現在の姿に成長していったのかを、皆様とも共有できるだろうと考えております。学会というものは決して突如として自然発生的に存在するようになるわけではないですし、組織として持続していくためには、相応の人的資源が必要です。すなわちそれは、この学会が今後も維持・発展していくためには、会員の皆様の参画が不可欠であることを意味しています。本学会が 20 周年、30 周年と、この先も歩み続けていけるかどうかは、会員の皆様一人ひとりが、変わらず…あるいはこれまで以上に積極的かつ主体的に学会運営に関わってくださるか次第だと思っています。

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 2. 事務局からのお知らせ

事務局長 山田 剛史 (関西大学)

いつもお世話になっております。事務局長の山田剛史(関西大学)です。

### (1) 2024 年度年会費納入のお願い

お手元に 2024 年度年会費納入のための振替用紙が届いているかと思えます。5 月 31 日までに納めていただければ幸いです。

### (2) マイページ活用のお願い

マイページには学会ホームページよりお入りいただけます。マイページからは、会員情報(所属等)の変更が行えます。4 月以降、異動される方、メールアドレスを変更される方などは、ご自身で登録情報を変更することができます。年会費の納入状況もご確認いただけますので、ぜひご活用ください。

ログインに必要な「会員番号」と「パスワード」は、2015 年度に会員だった方には 2016 年 3 月 16 日頃に、2016 年度以降に入会された方には入会時にお送りしたメールに記載されています。今後も必要となりますので、お手元にお控えください。

### (3) 学会誌バックナンバーの PDF 公開について

2022 年より、学会誌バックナンバーを PDF 化して学会ホームページにて広く公開しております。PDF 化につきましては、総会にて承認・周知されておりますが、何らかの事情で、ご自分の論文等を Web で公開できない場合は、事務局までご一報ください。

## 3. 学会誌編集委員会からのお知らせ

編集委員長 宮浦 崇 (九州工業大学)

まもなく初年次教育学会誌第 16 巻第 1 号がお手元に届くかと存じます。論文 4 件の他、昨年 9 月に山梨学院大学にて開催された第 16 回大会の記録など掲載しております。

次号 17 巻第 1 号の原稿募集のご案内です。多くの皆様からのご投稿をお待ちしております。

### (1) 次号の発行時期

2025 年 3 月に第 17 巻第 1 号の発行を予定しています。

### (2) 原稿投稿の期限

第 17 巻第 1 号の投稿締め切りは 2024 年 5 月 31 日(金)

です。学会誌の編集規程及び執筆要領に従っていない場合は、投稿論文を受領することができません。そのような理由で返戻された論文を修正した上で再投稿する場合の期限も 5 月末日となります。提出期限間に投稿された論文については、規程・要領に従っているか否かの確認が期限後となり、結果的に査読対象から外れることがあります。

### (3) 原稿の執筆, 投稿, その他

研究論文, 事例研究論文, 自著紹介を募集します。

初年次教育学会のウェブサイトに掲載している「初年次教育学会誌執筆要領」「論文執筆用のテンプレート」「カバー用テンプレート」を御参照ください。指定した書式通りでない原稿は、受け付けることができませんので御注意ください。特に図表については該当箇所を本文中に示すだけとして、図・表いずれもテンプレート末尾のページに掲載することになりますので、執筆を検討・開始する会員におかれては改めて御注意ください。

<http://www.jafve.org/society/regulations/shippitsuyorvo/>

また執筆及び投稿にあたっては、事前に「初年次教育学会倫理綱領」の精読をお願い申し上げます。

<http://www.jafve.org/wp-content/uploads/kaisoku190907.pdf>

### (4) 投稿論文の提出先

初年次教育学会ウェブサイト「学会誌」のタグにある「電子投稿システム」からお手続きください。

<https://iap-jp.org/jafve/post/Login>

### (5) 投稿資格および 1 巻あたりの投稿数

本誌に論文を投稿することができる者は、共同執筆者を含め、前年度までに入会し 3 月末までに会費を納入している個人会員及び機関会員に限られます。また、1 巻あたりに投稿できる論文の数にも定めがあります。詳細は、初年次教育学会誌編集規程第 9 条を御確認ください。より多くの会員の皆様から、充実した研究論文及び事例研究論文の投稿をお待ちしております。

<http://www.jafve.org/society/regulations/henshukitei/>

## 4. 大会運営委員会からのお知らせ

大会運営委員会委員長 清水 栄子 (追手門学院大学)

昨年の初年次教育学会第 16 回大会は課題研究シンポジウム、大会校シンポジウム、自由研究発表、ワークショップ・ラウンドテーブル等の全プログラムを対面形式で開催いたしました。2 日目の最後には、大会参加者の皆さまが

交流を深められる場として、リフレクション・セッションが新設されたほか、情報交換会も復活しました。なお大会関連行事として、9月9日(土)に実践交流会が開催されました。山梨学院大学実行委員会の皆さまが、地域の関係団体にご協力いただき、参加者の皆さまに心からのおもてなしを提供くださいました。対面での大会運営にあたって、藤波大会運営委員会前委員長のご尽力、大会校の山梨学院大学の皆さま方の献身的なご協力に加えて、登壇された皆さま、自由研究やラウンドテーブルで発表いただいた皆さま、そして参加されたすべての皆さまにご協力いただき、大変充実した大会となりました。あらためましてこの場をお借りしてお礼申し上げます。

第17回大会は、2024年8月29日(木)、30日(金)の日程で、「全学必修初年次自校教育科目、その成果と課題(仮)」をテーマに東京家政大学(東京都板橋区)を会場として開催します。今回もワークショップ・ラウンドテーブル、大会校企画シンポジウム、課題研究活動委員会企画シンポジウムおよび自由研究発表を予定しております。

4月10日(水)頃を目途に大会HPの公開準備を進めております。これに合わせて自由研究発表およびラウンドテーブルの申込を4月10日(水)から5月20日(月)まで受け付ける予定でおります。なお発表申込には、大会要旨原稿の提出も併せて必要となりますので、早めに準備をお願いします。会員の皆さまからの発表申込とご参加を心よりお待ちしております。大会HPが公開されましたらあらためてご連絡します。

初年次教育に関する研究や実践の成果発表、会員相互の交流の機会を通して知見を深めるような年次大会になるよう準備を進めてまいります。今後とも会員の皆さまのご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

8月に東京家政大学で多くの皆さまとお会いできますことを楽しみにしております。

## 5. 初年次教育実践交流会の報告

地域活動活性化委員会委員長 藤本 元啓(崇城大学)

2023年度中に開催しました実践交流会の概要を報告いたします。

なおこの「地域活動活性化委員会」は、「会員の求めに応じて、地域における初年次教育の普及と情報交換を行い、教育実践の事例を共有する場として実践交流会を企画・運営し、または支援する」もので、開催する実践交流会には本学会の会員以外の方の参加もできますので、お誘い合わせください。

### (1) 初年次教育実践交流会 in 北陸

日時: 2023年10月7日(土)13:00~15:40

会場: 金沢医科大学病院 中央棟4F 橋ホール

形式: 対面・遠隔同時開催

テーマ: 初年次教育は学生の能動的な学びを促しているのか—アクティブラーニングの観点から考える

参加者: 28名(対面12名, 遠隔16名)

今年度で8度目の開催となる北陸では、学会発足15年の節目として、「初年次教育は学生の能動的な学びを促しているのか」をテーマとしました。アクティブラーニングを中核に据える実学系大学のプログラムから、①コンテンツ重視型、②場・環境重視型、③ツール活用型の実践例を3大学に報告いただきました。パネルディスカッションでは、学生の能動的な学びを促すうえで、授業での創意工夫が肝であること、教師と学生や学生同士の双方向コミュニケーションが重要であることについて議論いたしました。プログラムは以下の通りです。

開催趣旨の説明 垣花 渉(石川県立看護大学 看護学部)

#### 第1部 実践事例報告

##### ①コンテンツ重視型

知識のシェアを実践しながら学ぶアカデミック・ライティングの講義

本田 康二郎(金沢医科大学 一般教育機構)

##### ②場・環境重視型

看護学生が学びたいように学ぶ科目(HHC)の展望と課題

垣花 渉(石川県立看護大学 看護学部)

##### ③ツール活用型

初年次教育とeポートフォリオシステム

藤本 元啓(崇城大学 総合教育センター)

#### 第2部 パネルディスカッション

初年次教育は学生の能動的な学びを促しているのか

コーディネーター: 栃内 文彦(金沢工業大学 基礎教育部)

パネラー: 本田 康二郎, 垣花 渉, 藤本 元啓

まとめ 澤田 忠幸(石川県立大学 教養教育センター)

### (2) 第58回 協同教育研究会 初年次教育実践交流会認定研究会

日時: 2023年9月23日(土) 13:00~17:00

会場: 久留米大学御井本館3階13BC教室

テーマ: 協同による教育・学習

参加者：38名

①協同カフェ「グループ活動って、難しい・・・？」

平上 久美子・比嘉 真子（名桜大学）

学校や職場におけるグループ活動について、前提条件なしでの語り合い場面の体験

②講話と対話

関田 一彦（創価大学）

協同教育とは何かを問い直し、協同教育と協同学習との関係や、協同教育でしばしば使われる「言葉」についての講話と対話

**(3) 第59回 協同教育研究会 初年次教育実践交流会認定研究会**

日時：2024年2月17日(土) 14:00～17:20

会場：久留米大学御井本館3階13BC教室

テーマ：LTD授業モデルによるAL型授業の質向上

参加者：70名

①LTD授業モデルの説明

安永 悟（久留米大学 文学部）

②実践報告Ⅰ

協同学習による講義・実習へのはじめてのチャレンジ

増田 宏（久留米大学 医学部）

③実践報告Ⅱ LTD授業モデルによる授業開発とその成果

・浦添看護専門学校での実践

安永 悟，知念 榮子・大城 明枝・藤田 裕美子（浦添看護学校）

・久留米大学医学科における実践

小松 誠和（久留米大学 医学部）

④全体交流

LTD授業モデルが対象としてきた専門学校や大学における初年次教育科目に加え、高校での「総合的な探究の時間」や、大学での専門教育科目への活用といった学校種や学年を越えた「縦のつながり」と、同時に開講している他科目における展開といった「横のつながり」について、協同学習による授業のつながりの観点から検討した。

**6. 第17回大会課題研究の登壇者募集**

課題研究活動委員会委員長 山田 礼子（同志社大学）

本年度の課題研究は、新たな試みとして2022年より実施されている公募型・推薦型の併用により課題研究の登壇者を募集します。課題研究活動委員会で選定した下記の課題について、会員からの自薦での登壇者の公募を行います。

皆さんにとって関心が高い課題について、研究実績や教育実践をお持ちの方を選定して、学会活動を活性化していきたいと思っています。多くの会員の応募を期待しています。

課題研究のテーマ：

「多様性を活かす初年次教育」

**(1) 問題の所在と背景**

一昨年、昨年とウィズコロナ、ポストコロナの初年次教育というテーマで、対面式の教育を中等教育段階で受ける機会が少なかった初年次生もしくは大学入学後に対面式授業よりもオンライン授業がメインであった初年次生を想定して、どのようなプログラムの工夫を行い、不安を緩和して、移行期を円滑に支援するかといった視点から課題研究を設定してきた。特に2年目では、ポストコロナの初年次教育というテーマが示唆しているように、コロナ禍を経て、大学側、教員側、そして学生が経験したこと、すなわち、オンラインが中心となった状況において、どれだけ、従来からの初年次教育に求められていた機能を果たし、新入生を導いているかについての研究やグッドプラクティス、オンライン・テクノロジーやDXの発達が初年次教育プログラムにいかなる影響を及ぼしているのかといった視点を組み入れて課題研究を構成した。

2024年度には、こうしたオンライン・テクノロジーの進化、DX化、AIの進展もあるなかで、現在の学生、特に初年次生が直面している問題や初年次生の特徴は何かということ課題研究活動委員会では、議論をした。その過程で、オンラインの経験も含めて、高校での探究学習の経験や高校自体での探究学習に注力する温度差、総合入試などこれまで以上の入試の多様化が進み、初年次生の多様性、送り出し先である高校の多様性、受け入れ先である大学の多様性といった「多様性」がキーワードになるのではということになった。加えて、初年次教育学会が発足して以来、「自己肯定感の醸成」は初年次教育の重要なテーマであったが、この自己肯定感の醸成を多様性のある初年次生、多様な高校、多様な大学という視点からどうとらえ、初年次教育を構築していくかを大きなテーマとして提示することにした。

課題研究活動委員会では、本方式により、グッドプラクティスだけでなく、研究としての蓄積にもなるような内容を深めていくことを目的としている。過去2年間で、6つの取組が選定され、大会シンポジウムで報告され、学会誌に掲載されるという成果につながっている。

今後の学会活動を担っていく人材を発掘するというこ

とに鑑みて、本テーマやサブテーマに関連して研究を行っている、あるいは実践を行っている話題提供者を公募するという形で発掘することにした。

なお、大テーマは「多様性を活かす初年次教育」であるが、サブテーマとして以下の4つを立てている。サブテーマは必ずしも1つのみではなく、複数にまたがる場合も可とし、発表には、事例（実践）に分析的な観点も含まれていることを要件としたい。

サブテーマ：

- (1) 自己肯定感
- (2) 探究学習の経験
- (3) 多様な入試，入学前教育，高大接続
- (4) 帰属意識，愛校心

## (2) 選考の方法・スケジュール

この選考にあたっては、皆さまの実践や研究成果から、これからの初年次教育や大学教育の在り方を考えつつ、課題発見から課題解決につなげることを目指している。

課題意識の明確性、実践実績または分析の説得力、発展性、汎用性、などの観点から審査を行う。

募集人員：3名程度

### (i) 書類選考

800～1000字程度に、研究報告の概要についてまとめてもらう。初年次教育学会の課題研究シンポジウム用の書式を準用する。

①タイトル、②サブテーマのいずれに該当するか（複数可）、③報告内容（内容、方法）、④氏名、所属を記載

送付先：学会事務局 [jafve-office@bunken.co.jp](mailto:jafve-office@bunken.co.jp)

締切：5月7日17時

申請書書式については、HPの新着情報、3月22日に掲載されていますのでご活用ください。

### (ii) 審査委員会で書類選考通過者に面談（Zoom）：

5月12日～15日頃を予定

課題研究活動委員会で選考結果決定・通知：

5月中旬以降を予定

登壇者の審査・調整を行い、サブテーマ、登壇者確定

### (iii) 登壇者打合せ：6月下旬以降を予定

### (iv) 公募申請にあたっての留意事項：

- ・初年次教育学会の個人会員もしくは機関会員であること
- ・大会2日間の両日に出席が可能であること。課題研究シンポジウムが初日あるいは二日目のいずれになる

かが流動的である場合があるため

・初年次教育学会による教育実践賞への応募申請と本課題研究への重複申請は妨げない。

## (3) 審査担当者

課題研究活動委員会：山田 礼子，笹金 光徳，

本田 康二郎

## 7. 「2024年度教育実践賞」応募要領

教育実践賞委員長 山本 啓一（北陸大学）

初年次教育学会では、初年次教育に関する実践の発展とその成果の普及によって大学教育の改善に資するため、効果的な初年次教育の実践例を表彰し、学会内外に広く紹介することとしております。審査の結果、選ばれた取組については、学会大会で表彰するとともに、学会ニューズレターによる通知と学会ウェブサイトおよび学会誌での公表を行います。会員諸氏のこれまでの初年次教育実践への努力と工夫を広め、大学教育の発展に貢献する貴重な機会となりえます。奮ってご応募ください。

### 申請期間：

2024年4月1日（月）～2024年5月20日（月）17時

### 対象：

本学会員が申請時点までに行ってきた大学、短期大学、高等専門学校等における初年次教育に関する取組。「取組」とは、1科目、複数科目、1年次のカリキュラム全体、高大接続、初年次教育と専門教育との連携、正課外の活動等を含む。

### 申請者等：

本学会の個人会員または機関会員。個人単独あるいは複数による申請、また、組織による申請も可。取組の担当者等に非会員が含まれることはかまわないが、氏名を記載できるのは会員のみ。

### 申請の手順：

- (1) 申請者は、所定の申請書を作成し、参考資料（PDFファイル）とともに本学会事務局に申請期間内にメールで送付する。
- (2) 書類選考を通過した申請者は、申請書の内容に基づき、当該年度の学会大会時にポスター発表を行う（同大会では、申請者が関連のある自由研究発表、課題研究も行うことを妨げない）。ポスターはA0サイズのものを作成いただき、大会初日午前中に持ち込むか、事前に郵送する。大会期間中、ポスターを閲覧した大会参加会員が

ルーブリックにもとづいた投票を行う。

- (3) 大会終了後約1ヶ月間（期間は後日告知予定）、ホームページ上でポスターのPDF及び10分程度のプレゼン動画を公開する。参観した会員がルーブリックにもとづいた投票を行う。

**審査方法・基準：**

本学会が設置する審査委員会が、独創性、適切性、有効性、汎用性、有用性の5つの観点から構成されるルーブリック（学会ウェブサイトにて公表）に基づいて審査を行い、ポスター発表参観者からの投票結果も参考にしたうえで最終的に決定する。

**公表方法：**

審査の結果、選ばれた取組については、次年度の学会大会で表彰するとともに、これに先行して、学会ニュースレターによって通知し、学会ウェブサイトおよび学会誌において取組の概要と審査報告を公表する。

**(3) 事務局分室について**

本学会では国際文献社に事務局業務の委託を行っております。問い合わせ等につきましては以下をご確認ください。

**事務局分室**

〒162-0801  
東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター  
TEL: 03(6824)9372 FAX: 03(5227)8631  
E-mail: [jafve-office@bunken.co.jp](mailto:jafve-office@bunken.co.jp)

**事務局 関西大学 山田 剛史研究室内**

編集：杉谷 祐美子，大嶋 康裕（総務広報委員会）

（2024年3月31日第1版公表）

**送付先・問合せ先**

初年次教育学会事務局分室  
〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5  
アカデミーセンター  
TEL: 03(5937)0473 FAX: 03(3368)2822  
E-mail: [jafve-office@bunken.co.jp](mailto:jafve-office@bunken.co.jp)

**8. 編集担当より**

総務広報委員会委員長 杉谷 祐美子（青山学院大学）

**(1) 賛助会員による広告添付について**

賛助会員には、年1回、会員への情報提供の際に、A4で1ページ分の広告・情報提供資料の添付が認められております。本学会ニュースレターでは第4号より、それまでのメール添付ではなく、学会ウェブに広告データを次号刊行まで掲載します。

なお、学会および学会事務局は、これらの広告内容に関与していません。

<http://www.jafve.org/newsletter16/>

**(2) 実践事例の募集について**

ニュースレターに掲載すべき実践事例や事例紹介などを募集しております。掲載ご希望の方は学会事務局にお知らせください。